

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR A 作業班（第 1 回）議事要旨（案）**

- 1 開催日時：平成 23 年 6 月 15 日（水） 15 時 00 分～16 時 50 分
- 2 開催場所：総務省 8 階 共用 801 会議室
- 3 出席者（順不同）

【構成員】篠塚主任 (NICT)、田島主任代理 (NTT)、雨宮構成員 (NTT-AT)、石上構成員 (NICT)、石田構成員 (ARIB)、黒沼構成員 (協立電子)、小根森構成員 (JEMA)、濱住構成員 (NHK)、針谷構成員 (KEC)、平田構成員 (富士ゼロックス)、星構成員 (VCCI)、益田構成員 (JET)、三塚構成員 (TELEC)、宮田構成員 (JEITA)

【関係者】井上氏 (KEC)

【事務局】浦賀監視官・加賀谷係長・郷藤 (総務省)

4 議事概要

- (1) 事務局から配付資料の確認が行われた。
- (2) 篠塚主任から主任交代について説明が行われた。
- (3) 事務局から NICT 山中構成員から石上構成員、TELEC 野村構成員から三塚構成員、JET 山下構成員から益田構成員への交代が紹介された。
- (4) 資料 1-1 前回議事要旨案について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することで承認された。
- (5) 資料 1-2 から 1-5 までにに基づき、CISPR16-2-1 第 2 版答申案について、篠塚主任から提案説明があり、下記の議論が行われた。エディトリアルな修正を行った版についてメール審議を行うこととなった。

○黒沼構成員：3.12 節 a) と b) について、「半分」は何にかかるのか、表現は正しいのか。
 篠塚 主任：「半分」は平衡電圧にのみかかる。特にデビエーションは行っていない。
 黒沼構成員：特に間違いがなければ良いが、分かりにくい表現となっている。通常、最初の 1 文のみで、a)、b) は不要ではないか。
 篠塚 主任：a)、b) は 2 端子回路網の場合を記述しているので、最初の 1 文に改行を入れると分かりやすいか。基本的には原文から外れないようにしたい。

- (6) 資料 1-6 に基づき、CISPR/A/944/CD の文書審議について、雨宮構成員から提案説明があり、下記の意見およびエディトリアル修正の後、承認された。本日不参加の委員がいるため、本日の意見反映版についてメール審議を行うこととなった。

○平田構成員： Z_{CM} が $150\Omega +10/-20\Omega$ となっているが、IEC61000-4-6 の改定の審議の中

で 24MHz から $150\Omega +60/-45\Omega$ とする案があり、 -45Ω では基準に入らないという話が出ている。実測ベースで検討した結果では 106.6Ω なので入るのだが、300MHz で 130Ω ではかなり厳しいと思われる。

雨宮構成員：承知した。それに関する文書があれば情報提供して戴きたい。7月5、6日に本件の JTF がベルリンで開催されるので、説明したい。

平田構成員：コンピレーションコメント等を送る。

○平田構成員：デカップリングに関して、周波数特性の要求事項が全くない。内部電気線路長によって試験結果が異なる。IEC61000-4-6 ではテストレポートに内部電気線路長を書くことを要求している。エミッションでは電気線路長の規定を決めた方が良くはないか。CISPR/A/946/CD で EUT と CDN の距離は規定しているが、ケーブルの長さは規定されていないので、長さを変えて規格に入れる可能性がある。

雨宮構成員：おっしゃるとおりと考える。CISPR/A/946/CD では測定法のテストセットアップの図にも載っていないということであればコメントする必要があるか。

平田構成員：テストセットアップには EUT と CDN の距離は規定しているが、ケーブルの長さは規定されていない。CDN のメーカーによってデカップリングまでの電気線路長の差で相当差が出ると思う。

○針谷構成員： $150\Omega +10/-20\Omega$ はかなり難しい。ただ、この規定は電圧として測るのでインピーダンスがばらつくデータが変わるので、厳しくしなければいけないが、実現することは難しい。

雨宮構成員：今までの JTF では、可能なのか否か検証すべきではないかと言ってもやらないし、データを出すとやっているがなかなか出てこない。CISPR16 シリーズに載せる案件であり、いい加減に決めてもらっては困っている。

針谷構成員：LCL を規定しろという意見だが、300MHz まで LCL を測定することは可能なのか。

雨宮構成員：直感的に 200MHz までではできると思うが、それ以上は難しいかもしれない。できたら 60、少なくとも 50dB ぐらいの LCL プローブを 300MHz までできるようにになれば、どうにかなるのではないかと思っている。

篠塚 主任：今の平田構成員と針谷構成員の意見を、我が国の意見の 3 番、コメントの 1 番に、IEC61000-4-6 の状況や実際に現場では $+10/-20\Omega$ というのは不可能等、具体的な数値を入れたコメントが効果的と思われる。

○井上関係者：「ディファレンシャルモードの電圧が存在する場合は」という箇所について、CDN を使ってまずディファレンシャルモードが出ているかを見てから、CDN を使用するか判断するというのか。CDNE 法の測定法の中に引用するというのか

雨宮構成員：本 CD は CDN 単体の要求された性能に関するもので、測定法の話は 946/CD に記載されており、平伴氏が審議表を作成している。

井上関係者：現実問題として使えるかを判定してから使いなさいということか

雨宮構成員：その通り。コメント 3 で LCL の規定を入れないのであれば、ディファレンシャルモードの信号を測定して許容値を決定するべきと記載している。

○井上関係者：30～300MHz のコモンモードインピーダンスを 25Ω にすべきだという意見だが、現実的には一般的な電源線のインピーダンスは 30～300MHz で 25Ω なのか。

雨宮構成員：AMN の 50Ω のインピーダンスを決めた時は、CISPR/A で何年かの蓄積データを統計的な処理をやって議論の末 50Ω としたと聞いている。30MHz 以下は 25Ω、30MHz 以上は 150Ω というのは違いすぎではないか。データも取らずに、そのような結論で良いのかという主旨である。実際、VHF-LISN は 25Ω で、300MHz までかなりフラットな F 得で実現している。30MHz で急に 25Ω から 150Ω になるとは思えないので、25Ωの方がまだリーズナブルではないのかと考えている。

篠塚 主任：VHF-LISN の日本からの提案で、VCCI が 10 いくつかのサイトの電源線のインピーダンス測定している。三塚構成員の方で覚えていないか。

三塚構成員：おおよそ中心が 75Ω ぐらいであったと思う。周波数は 10kHz～300MHz まで。

(8) その他

次回会合は未定。

以 上